# 教会建築 特集

## [会堂建築のプロセス]

（教会建築事務所、数社の建築工程を参考）

**❶ 建築委員会の発足**
- 建築委員会の発足
- 教会資金力調査
- 建築場所の選定
- 建築規模の選定
- 設計者（事務所）の選定

**❷ 設計**
- 基本計画の話合い
- 基本設計開始
- 予算打合わせ
- 実施設計承認
- 公的手続き
- 施工業者選定
- 業者と契約

**❸ 工事**
- 起工式
- 近隣挨拶
- 工事開始
- 献堂式

**❹ アフターケア**
- 管理責任者の決定
- 補修計画の策定

**【教会建築まめ知識】**

○工事着工前に必ず教会員が近隣挨拶に行くこと。トラブル回避と伝道につながる。

○牧師館が教会内にあると、牧師・教会員ともに気を遣うため、牧師は教会とは別の場所に住む方が良いケースが多い。

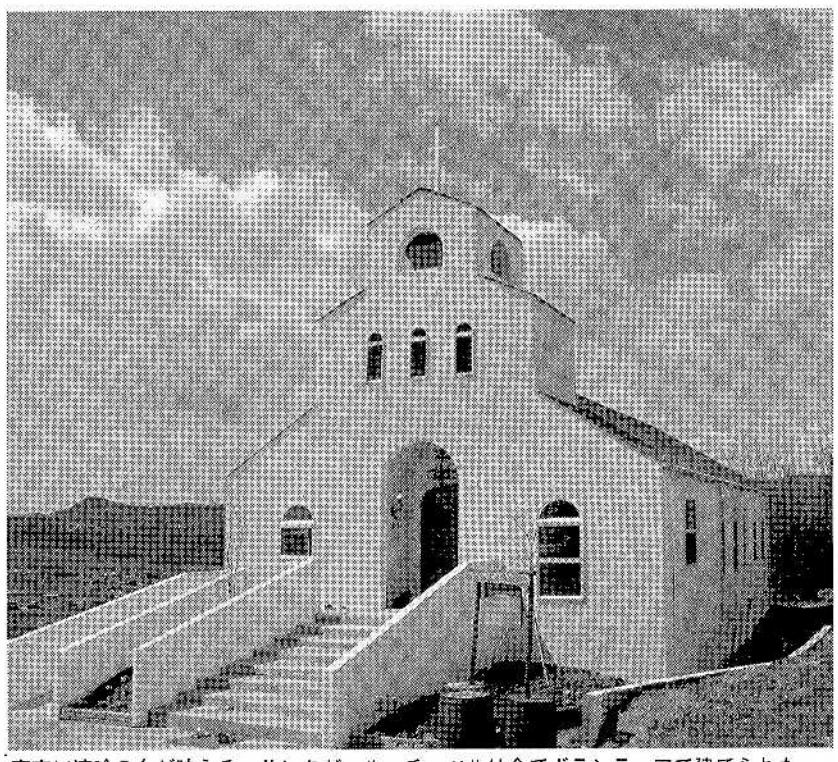
○設計段階で「礼拝堂収容人数」を考えるにあたって、人数に固執しないようにする。特に、敷地にゆとりが無い場合、礼拝堂の椅子はベンチ椅子ではなくパイプ椅子が好ましい。多目的使用が可能。

○バリアフリーの観点から、2階以上に礼拝堂がある場合、エレベーターの設置も検討を。

○設計会社と施工会社は分離した方が良いケースが多い。なぜなら前者は管理責任があり、施工時に問題を指摘することができるため。ただし信頼できる会社であれば、一括注文をした方がコストを抑えられ、後々融通が利く。

長野

# 「みんなでチャペル」斑尾高原に新



青空に漆喰の白が映える。サンクゼール・チャペルは全てボランティアで建てられた

[illegible]社斑尾高原農場の代表取締役、久世良三さんが経[illegible]を建てると祝福がくる」との示しを受けた。[illegible]ると、神からの後押しを共に受け、2004年9[illegible]ほどが集まった。

電気工事は、まゆみさんの友人のご主人（未信者）がボランティアで、避雷針取り付けから配線工事、照明器具の取付けに至る全ての電気工事を助けた。また、親しくしている建築会社の社長が大量の足場や大型のコンクリートミキサー車を無償提供し、さらに漆喰ぬりの職人を数日派遣してくれた。

資材は、米国オレゴン州ポートランドからコンテナで3回取り寄せた。また久世夫婦は直接、アメリカのホームセンターで大理石や照明器具、流し、トイレ、シャワーなどを購入。米国のキリスト教関係の資材屋から材木やシステムキッチン、ドア、窓、椅子なども購入した。米国のインターネットオークションでは、100年前の教会に取り付けてあったという鐘も手に入れた。

デザインは、社長で教会長老でもある良三さんとハミルトン師が、試行錯誤を繰り返した。彼らはまったくの素人。これまで建築設計などしたことなどなかった。イメージは、イスラエルのガリラヤ湖畔にある「パンと魚の奇跡の教会」。漆喰の白がひと際目立つ美しいデザインとなった。

総工費は約2800万円。そのうち材料費が2300万円弱というから驚きだ。延床面積120坪。礼拝堂の他に談話室、キッチン、宿泊施設（シャワー付き2部屋）、トイレを備える。

礼拝堂が完成したことにより、4月24日、献堂式を行なった。地下階は6月に完成。会堂周辺を巡らす芝生などの庭工事は7月中には完成予定だ。会堂とレストラン周辺の庭工事は教会員の寄付でまかなわれている。

驚いたのは、斑尾高原農場に来た一般客が礼拝堂へ足を運ぶようになっていることだ。取材で訪れた際、礼拝の最後に60名以上の団体が入ってきた。牧師のまゆみさんがリードをし、未信者のお客さんとともに手をつなぎ、「God bless you」を歌っていた。多くの一般観光客がやって来ては、必ずこのお洒落なチャペルを覗いていくという。長野の観光名所の一つとなりつつある。

教会員であり斑尾高原農場社員の米澤輝美さんに案内されました

「これがきっかけで斑尾高原農場に建築部ができました」と語る良三さんのビジョンの一つは、クリスチャンのコミュニティーを作ること。この場所に、墓地や老人ホーム、リトリートセンターなどを併設させる壮大な青写真を描いている。

【桃井亮】

# 神が求める教会建築とは

永野卓建築設計事務所　建築家・永野卓

## 教会と建築の関係

教会にしばしば建築は必要とされる。教会の必要に応えてそれは建てられる。神が求める建築の形はあるのだろうか。明確な意味付けはできるのだろうか。その時、クリスチャンはどう対応したら良いのだろうか―。実際のところ、「教会」と「建築」の関係は極めて曖昧な概念の中にある。

教会にとって、会堂が不可欠なものであるかと問えば、答えは否であろう。会堂がなくても教会は機能する。礼拝の場が借家や借室であっても、個人の住宅でも、あるいは屋根のない屋外でも同様。クリスチャンは、どこでも礼拝を守ることが可能なのである。なぜなら、礼拝の場である「神殿」としての機能は、もはや建物にではなくクリスチャン一人ひとりの体にあるからである。教会にとって、建物の有る無しは、大きな問題とはならない。

「ニコライ堂」の愛称で親しまれている東京復活大聖堂（東京・千代田区）。教会としてすっかり街の風景に溶け込んでいる

## 「証」と「賛美」が形となる

では一体、教会が会堂を持つ意味とは何だろうか―。雨風を防ぐといった建築の基本的機能は当然である。しかし、それらの実利的機能を超えて、会堂には何か意味があると言えるだろうか。

まれメッセージは、そこを訪れる人々に語りかける。まさに「証」である。つまり、建築の芸術的側面を大きく発信してきた事実は動かしようがない。あなたの町にある教会も、そこに「キリストの教会がある」ということを周囲に語っているはずである。

そういったことから建築は、クリスチャンの表現形態の一つとして機能することが分かる。絵画や彫刻などと同じように、建築には造り手の様々な思いや意図が表現される。造り手の篤い信仰は、建物に確実に表れる。建物に埋め込まれたメッセージは、そこを訪れる人々に語りかける。まさに「証」である。つまり、建築の芸術的側面

### 証の機能

過去の名建築を振りかえってみると、その多くがキリスト教建築で占められていることに気付く。キリスト教会は、世界史の中で数々の超一級の建築を生み出してきた。もちろん、すべてが優れているとは言えないが、少なくとも社会に対し、キリスト教会の存在を大きく発信してきた事実は動かしようがない。あなたの町にある教会も、そこに「キリストの教会がある」ということを周囲に語っているはずである。

### 造り手の賛美が現れる

教会建築にはさらなる機能がある。礼拝堂は神の臨在の中、賛美の歌が響く。その音は建築の中で反響し、それを歌う人々を包む。「音や言葉の反響」「窓からの光」「光による陰影」「素材の色や質感」といった建築の作り出す要素が、礼拝空間にある種の雰囲気を造り出す。それらは神を誉め讃える空間を形成している。

つまり、建築の芸術的側面は「証」という機能を持っているのだ。だから建築は、真の意味で美しく建てられる必要がある。

とはいえ、ただロマネスクやゴシックといった教会建築の記号をちりばめるだけでは、「キリストの証」とはなり得ない。また流行のデザインを不用意に選択するのも考えものだ。おそらく、教会に表現されるべきことは、中世ヨーロッパにあった信仰のイメージでも、この世の価値観でもないのだから…。

### 教会の使命とは

教会建築にとって、「証」と「賛美」という機能は、教会の求める実利的機能をはるかに超えて重要な要素であると思う。現代、教会においてこの建築による「証」と「賛美」は軽視されていることが多い。この重要な機能は、しばしば経済の優先により切捨てられる。結果として、世俗建築と同じ価値観で建てられる教会建築は少なくない。しかし、その建築から発せられるのは、ただただ「倹約の証」である。

教会の使命を再考するとき、教会建築の形が現れる。神からのヴィジョンに対する妥協のない信仰を建築においても実現すべきではないだろうか。目的は神の栄光が顕されることにある。ハレルヤ！

**【プロフィール】**

1960年、東京生まれ。1984年、東海大学工学部建築学科卒。1993年、永野卓建築設計事務所開設。一級建築士。藤沢羽鳥福音教会に通う。B&A（バイブル&アート・ミニストリーズ）会員。

株式会社 西村建築設計 NISHIMURA ARCHITECT&
設計・監理